

2025.9.4

三重県立高等学校の在り方調査研究部会

高等学校の学習環境

神奈川大学 建築学部 准教授 立花美緒

1.自己紹介

本日の流れ

1. 自己紹介
2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習環境
3. それぞれ異なる生徒を支える学習環境
4. 教職員の働く環境
5. 地域社会の学校

立花美緒

2006 東京工業大学大学院建築学専攻修了

2006-2008 山本理顕設計工場

2008 立花美緒設計事務所設立

2014-2022 東京工業大学助教 現東京科学大学

2022- 神奈川大学建築学部 准教授

学校建築アドバイザー（建築計画者）とは？

- ・学校建築をとにかくたくさん見ている（研究）

学校の先生に実態をヒアリング

実際にどう使われているか観察調査

- ・得られた知見を学校建築の計画、設計、施策にフィードバック

自治体、学校、設計者、省庁にアドバイス

- ・ワークショップ等

地域、先生、生徒と校舎、学校の未来を一緒に考える

- ・教育と建築をつなぐ



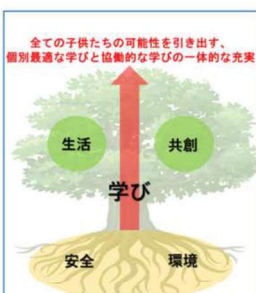


WSの目的

- ・学校建築や学校づくりに「どこでも同じ正解」はない
- ・地域社会、学校、教職員、生徒に固有の課題、目指すもの
課題も複雑化
- ・一緒に考えていきましょう！
- ・ゼロから考えるのではなく、これまでの学校建築や
そこでなされてきた教育、活動、生活
→ヒント、ディスカッションのきっかけ

2.主体的・対話的で深い学びを支える学習環境

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）



全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

新しい時代の学び舎として目指していく姿

「未来思考」をもった上で、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿を示す。

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『学び』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『生活』『共創』の空間を実現する。

また、新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『安全』『環境』の確保を実現する。

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

学び 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現

- ⇒ 1人1台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備
- ⇒ 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備
- ⇒ 教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場（ラウンジ）、映像編集空間（スタジオ）の整備

（教室・教室周辺の空間の改善・充実に関する創意工夫の例）



1人1台端末環境等に対応したゆとりある教室の整備



多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応



ロッカールーム等の配置の工夫等による教室空間の有効活用

生活 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現

- ⇒ 居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
- ⇒ 空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

共創 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現

- ⇒ 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
- ⇒ 地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共有化等

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

安全 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現

- ⇒ 老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
- ⇒ 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

環境 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

- ⇒ 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進
- ⇒ 環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告【概要】

1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、新しい時代の学校施設の在り方を議論

第1章 新しい時代の学びの姿

(1) 社会情勢の変化

- ⇒社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来
- ⇒新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

(2) 「令和の日本型学校教育」の姿

- ⇒中央教育審議会において、新しい時代の初等中等教育の在り方を検討
- ⇒教育再生実行会議において、ポストコロナ期における新たな学びの在り方を検討

学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての生徒たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

(3) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

- ・新学習指導要領の趣旨の実施
- ・9年制を見通した義務教育の在り方
- ・学校における働き方改革の推進
- ・地域社会や関係機関等との連携・協働
- ・GIGAスクール構想、ICTの活用
- ・多様な教育のニーズのある児童生徒への対応
- ・少人数による指導体制の整備

第2章 学校施設の課題

(1) 新しい時代の学びへの対応の必要性

●ポストコロナ時代における学校施設という実空間の役割

- ⇒児童生徒にとって安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能、社会性・人間性を育む社会的機能を有するなどの学校の持つ役割・在り方を再認識
- ⇒ポストコロナ時代において、子供たちがともに楽しい、学び、遊び、生活する学校施設という実空間の価値を捉え直す必要

●学びのスタイルの多様化への対応

- ⇒ICTの活用などにより、学校単位で一つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだけでなく、学びのスタイルが多様に変容していく可能性が拡大
- ⇒空間・時間を超えて、様々な学習リソースに非同期にアクセスして学ぶことができるなど「非同期・分散した学びのスタイル」が広がり、これまでの「同期・集合した学びのスタイル」と往還する場が展開されていく可能性も拡大

(2)～(4) 学校施設等における現状と課題

- ・これまでの学校施設の計画、教室面積、多目的スペース、空調設備の整備状況 等
- ・防災・減災、国土強靱化、耐震対策、老朽化した施設の実態、維持管理 等
- ・国・地方の財政状況、適正規模・適正配置等の実態、複合化・集約化の状況 等

第3章 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

Schools for the Future

「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

「未来思考」の視点

- ① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定概念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。
- ② 教室環境について、単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）をもつ。
- ③ 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）をもつ。
- ④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する。

新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）

これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく

学び



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

学び



教室と連続する空間も活用し、柔軟性のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

学び



映像編集やオンライン会議のためのスタジオ、芸術交流や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える拡張空間としていく姿

生活



木材を活用し広さのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

共創



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

安全



長く使い続けることができるように安全安心を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

環境



省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

第4章 学校設置者における推進方策

今後も増加する膨大な老朽化施設の現状等を踏まえ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に図る長寿命化改修等を積極的に推進していくことをはじめとした具体的な方策を提言

(1) 長寿命化改修を通じた、新しい時代の学びを実現する教育環境向上と老朽化対策の一体的な推進

- 安全・安心な教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びを実現していくため、長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を積極的に推進

(2) 首長部局と協働した、中長期的視点からの計画的・効率的な整備の推進

- 教育委員会と、まちづくり部局や財政部局、環境部局、防災部局等の首長部局との横断的な検討体制を構築
- 中長期的な将来推計を踏まえ、計画的・効率的な施設整備を推進（将来変化に柔軟に対応できる施設、将来的な他用途への転用、複合化・共用化等）

(3) 多様な整備手法等の活用と、施設整備と維持管理の着実な推進

- PPP/PFI手法を含め、民間活力を活用した施設整備・維持管理を積極的に推進
- 計画的に施設の点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理へと転換

(4) 学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備の推進

- 学校施設の計画・設計において、学校設置者と設計者だけでなく、新しい学びの担い手である学校の教職員など関係者が参画した施設づくりを促進、プロポーザル方式の導入推進等

第5章 国における推進方策

新しい時代の学びを実現する学校施設の整備を着実に進めるための具体的な方策を提言

(1) 新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性（目標水準）の提示

- 2020年代を通じて目指す、新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性を目標水準として整理

(2) 教育環境向上と老朽化対策の一体的整備の事例収集・分析

- 長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に整備している好事例について、ボトルネックとなる課題の解決策とあわせて積極的に周知

(3) 学校施設整備のための財政支援制度の見直し・充実

- 安定的・継続的な予算確保
- 国庫補助率を含めた財政支援制度の更なる見直し・充実

(4) 新しい時代の学びを実現する学校施設整備の技術的支援の充実

- 学校施設整備・活用のためのプラットフォームを構築（事例・ノウハウの発信、専門家派遣等）
- 先導的モデル研究等を通じた新たな学校施設モデルの提示

(5) 学校施設整備指針の改訂

(6) 普及啓発、適切なフォローアップと更なる調査研究等の実施

子供たちにとって「明日また行きたい学校」となるために、そこに集う人々にとっても「生き生きと輝く学校」となるために

教員から教えられる受動的な学びから

生徒のエンゲージメント（関与）を高める主体的な学びへ

例

- ・自分で授業を組み立てる
- ・カリキュラムの個別化 同じ時間に別々のことをやっている
- ・グループワーク、ペアワーク
- ・授業以外の時間も学び続ける
- ・自分で企画する、他のクラスや学年の生徒と協働する

- ・ OECD Education 2030 プロジェクト (2018, 2019)
OECD ラーニング・コンパス 学習の羅針盤
- ・ 現代
数多くの分野では広域な変化が加速 ex. デジタル化、気候変動、人工知能等
- ・ 子どもたちが社会に出る頃
現時点では存在しない仕事、未開発の技術、想定されていない課題
- ・ 産業化時代につくられた学校教育を再考 ex. 画一化、規則遵守、受動的な授業
- ・ **エイジェンシー**
不安定、不確実、複雑、曖昧 (VUCA) な中を進む力
学習者が自分の人生や周りの世界に対してポジティブな影響を与えうる能力と意志
変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる力
- ・ **共同エイジェンシー**
学習者と教育、家族、コミュニティ、学習者同士が双方向から支え合う関係

共用空間、話し合いやすい距離

GG校 (デンマーク・高校・郊外)

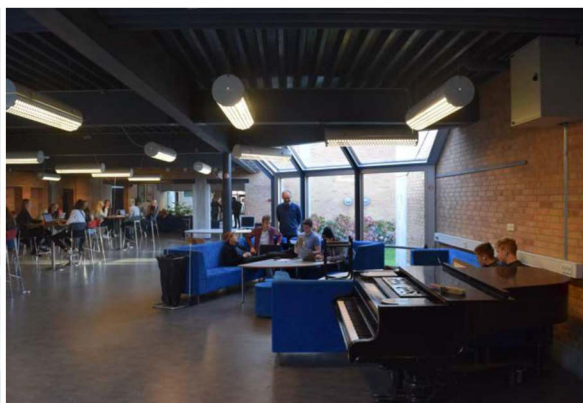
11500m² 1981

写真: 立花美緒

教員へのヒアリング

スペースがたくさんあるのが良い

生徒同士が距離が取れる

話し合いがしやすい

場所に助けられる

スペースと教材研究の時間

授業以外の時間も学び続ける・教科ホールと教科ステーション

FI校(日本・高校・地方)

14,176m² 2004



写真:立花美緒

グループワーク、ペアワーク

・一斉授業に比べて距離が必要

コモンスペース

グループルーム

・話し合いのしやすい環境

ハイテーブル、ソファ(リラックス)

分節された小空間 グループルーム、腰壁、パーティション、

ハイバックソファ、アルコーブ

音環境の調整にも

授業以外の時間も学び続ける・教科

PC校(日本・中高・都市)

24,390m²

2007



写真:立花美緒

授業以外の時間も学び続ける

- ・教科等の特色のあるコモンスペース

教材

ティーチャースペース

- ・メディアセンター

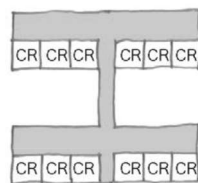
- ・クリエイティブラボ

- ・児童生徒(+ 教員、保護者、地域住民)が何かをやりたいと思った時に
実行できる場所

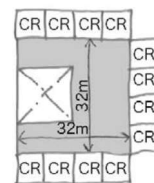
- ・同じ学年の協働、チームティーチング

- ・学年を超えた児童生徒(+ 教員、保護者、地域住民)や教科の組合せ

- ・専有されていない場所



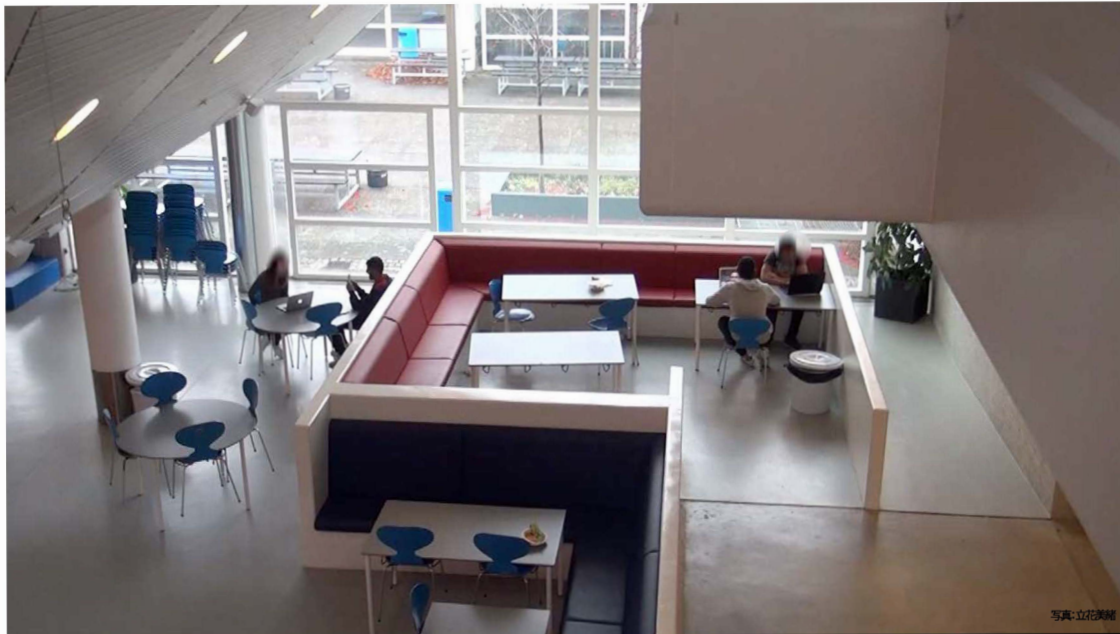
片廊下拡張型オープンスペース



コモンコア

Fig. 片廊下拡張型オープンスペースとコモンコア

自分で企画する、協働の組合せ HG校（デンマーク・高校・都市） 10500m² 1981



写真・立花美緒

・コモンコア 学校の内部広場

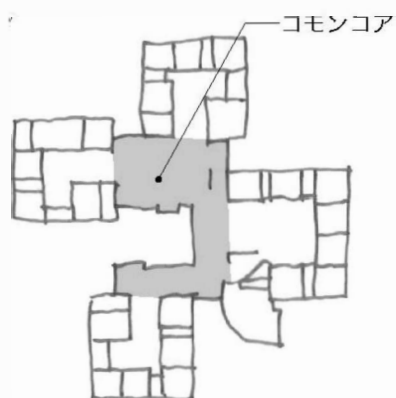
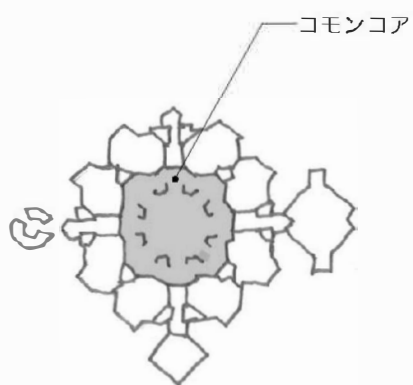


Fig. コモンコアの例 平面スケッチ

・コモンコア：比較的コンパクトに設計することも可能

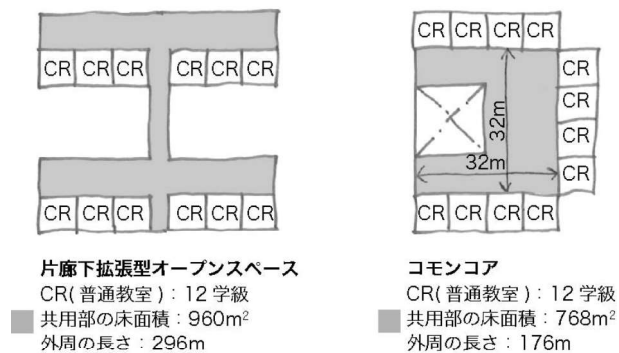


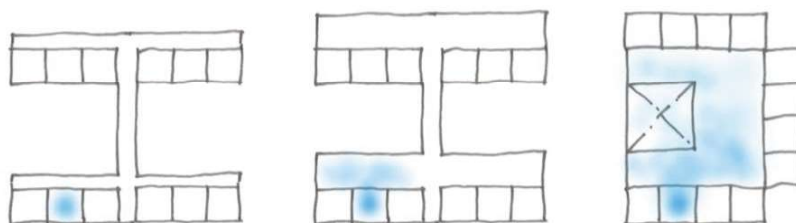
Fig. 片廊下拡張型オープンスペースとコモンコア

面積はコスト！

使用可能範囲（専有されていない範囲）

ちょっとずつ出し合ってシェア

→ 使える可能性がある面積は増える（誰のものでもない）



コモンコアがあるデンマークの高校の生徒1人あたりの面積
12～19㎡程度

参考

資料集成に掲載されている日本の高校建築作品
16～35㎡

機能を兼ねる

1つの場所を多機能に使う

面積はコスト！

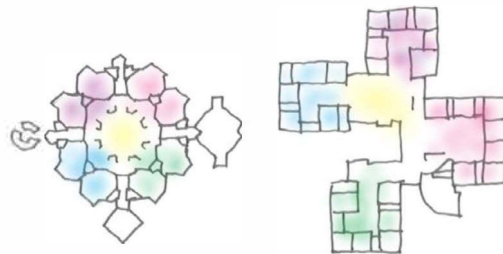
使用可能範囲

ちょっとずつ出し合ってシェア
→使える面積は増やしつつ
建築はコンパクトに

さまざまな活動

タイムシェア

特色をもった拠点と融通の効くスペース



改修事例

家具を生徒と計画する

IO校(日本・中学校・郊外)

2025





3.それぞれ異なる生徒を支える学習環境



写真:立花美緒

3.それぞれ異なる生徒を支える学習環境

- ・それぞれの生徒にとって集中できる環境は異なる

選べることが大事

開放的な空間一囲われた空間

机ーソファ 姿勢

- ・音の調整

グループリーム、アルコーブ、パーティション、

ハイバックソファ、ラウンジチェア

生徒が選ぶ環境

HE校(日本・高校・地方)

3,704m²

2019



写真:立花美緒

4.教職員の働く環境

教職員ラウンジ+研究室

G G 校（デンマーク・高校）

1981



教職員ラウンジ



少人数の職員室

写真:立花美緒

5. 地域社会の学校

4.教職員の働く環境

- ・大職員室タイプ

フリーアドレス成功例はオンラインツールを効果的に利用

- ・教職員ラウンジ+研究室 タイプ

教職員ラウンジ:コミュニケーションやリラックス、職員会議、非常勤講師

同じタイミングで居合わせる仕掛け ex.フリーコーヒー等

研究室:生徒の近くに居場所、教材研究、校務等

.

地域協働スペース

FF校(日本・高校・地方)

21,377m²

2019



写真:立花実緒



まとめ

2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習環境

グループワーク: 距離が必要

授業以外の時間も学び続ける場、生徒が企画、さまざまな協働: 専有されていない場

面積はコスト、シェアして使える範囲は増やしつつ建築はコンパクトに

改修や家具で、できることはたくさんある

3. それぞれ異なる子どもを支える学習環境

それぞれの子どもにとって集中できる環境は異なる、選べることが大事

音環境を調整する装置、さまざまな姿勢をとれる家具、大きい空間と小さな空間

4. 教職員の働く環境

5. 地域社会の学校

5.地域社会の学校

- ・共創、探求学習、公共施設再編等で県立高校と地域の関係に変化の兆し
- ・地域コーディネーター常駐
- ・生徒が運営するカフェ 総合学科(農業、商業等)、特別支援学校
- ・居場所カフェ 第3者としての大人 中学時不登校 セーフティネット
定時制等
- ・複合化 地域利用部分と学校を分けずに融合する事例の登場
- ・内部広場で地域イベント